

(報告書)

## コンゴ盆地に生きる狩猟採集民の喫煙文化の多様性についての比較研究

大石 高典

(東京外国語大学大学院総合国際学研究院)

共同研究者： Bernard Aristide BITOUGA, PhD  
(Department of Anthropology, University of Douala)

### 1. 研究目的

H20 年度研究助成「熱帯アフリカにおけるたばこと酒をめぐる市場経済と交換経済」ではカメルーン東南部の狩猟採集民バカにおける嗜好品利用が、社会経済的な変容のなかでどのように持続・変容しているのかを調べ、定住化によってアルコール利用増大が見られる一方で、たばこ利用は多様な喫煙植物利用文化の持続の一形態としてとらえられると結論した(Oishi & Hayashi 2014)。これを受けて、今回の助成研究では、タバコとともに野生・半野生の喫煙植物の利用実態について明らかにし、多様な喫煙植物がどのような文脈で使用され、どのようにタバコと使い分けられているのかを明らかにする。また、コンゴ盆地狩猟採集社会におけるたばこ受容について Roulette ら(2016)は隣国中央アフリカ共和国のアカ社会での事例をもとに進化人類学的な仮説（喫煙による寄生虫駆除仮説）を提案しているが、コンゴ盆地に暮らす複数の狩猟採集社会の横断的な比較研究はなされてこなかった。本研究では、カメルーンの異なる地域に居住する 3 つの狩猟採集民集団、すなわちバカ（東部州）、バコラ、バギエリ（南部州）において、性・年齢によってどのようにタバコおよび喫煙植物の利用行動が変化していくのかを調べ、比較検討の糸口を見出したい（図 1）。

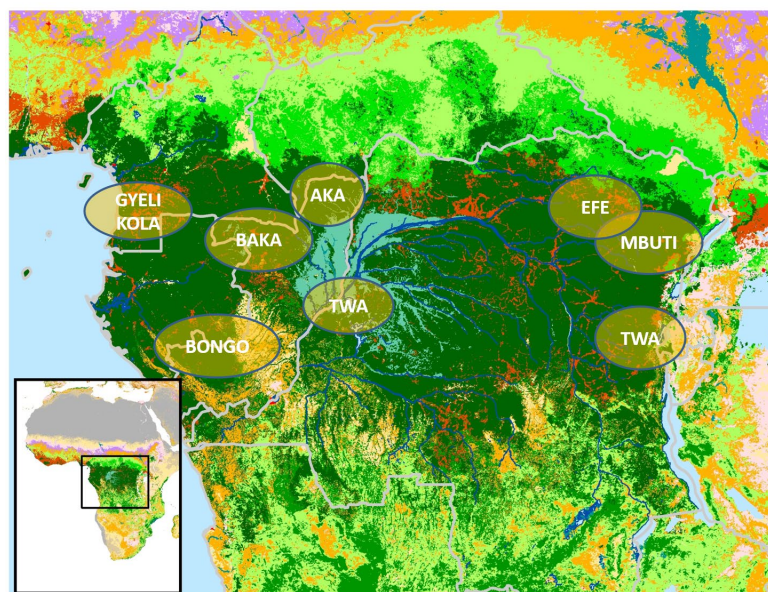


図 1：コンゴ盆地におけるピグミー系狩猟採集民の分布。アカ、バカ、バギエリの居住する地

域を円で囲んだ。

アカとバカは民族言語学的な研究から、もともと同じ集団だった祖先集団が、250年ほど前に何らかの理由で分化して現在に至ったという仮説が唱えられている(Bahuchet, 1993)。アカとバカの社会を比較すると、アカは男女が共同で集団網猟を行うがバカは個人単位で行うはねわな猟を主に行う。またバカの方がアカよりも農耕を受容して定住化の傾向が強い。共に平等主義的を規範とする社会であるが、換金作物栽培など特に成人男性による富の蓄積が進んでいるバカ社会ではアカに比べて、より個人主義的で固定化したジェンダー関係や親子関係がみられることがある。

一方で、バギエリとバコラは、カメルーンの経済首都であるドゥアラや貿易港を擁するクリビなど大都市に近い森林に居住し、大型の開発事業やキリスト教会など外部からの介入に早い時期から継続的にさらされてきた点でバカやアカとは異なっている。農耕化・定住化が進み、女性による農耕活動が盛んで生計維持への貢献のほか、女性の地位の変化が報告されている(Bitouga 2018)。これらの社会経済的条件の相違が、たばこや喫煙植物の利用にどのように影響しているのかを把握することを現地調査では心掛けた。

コンゴ盆地の狩猟採集民のたばこ好きは有名で、なぜ彼らがたばこにこだわるのかは多くの研究者の関心を集めてきた(図2)。およそ13集団が知られるピグミー系狩猟採集民のうち、喫煙行動についてまとまった研究があるのはアカとバカのみであり、今回の調査でバギエリ、バコラについて資料が得られれば重要な貢献となる。



図2：バカの老人は、優れたハンターの証として好んでパイプで喫煙する(左)。バカの子どもは、それを模倣して喫煙の真似をして遊ぶ(右)。出典：Oishi & Hayashi, 2014

## 2. 研究方法

### 2-1: 概要

【A】 文献調査によりコンゴ盆地のみならず、南部アフリカのブッシュマンや東アフリカのハッサなどアフリカ各地の狩猟採集社会を射程に入れた喫煙文化についての先行研究を把握し、

ピグミー系狩猟採集民におけるこれまでの研究の位置づけを試みた。

【B】 現地調査は、カメルーン東部州のバカ、カメルーン南部州のバギエリおよびバコラを対象に行い、それぞれ約 2 週間の集中的な現地調査を行った。具体的には、喫煙に関わる社会経済条件に配慮しつつ喫煙行動の直接観察、半構造的な喫煙履歴や喫煙行動についての聞き取り調査を行い、喫煙植物に関わる知識についての民族植物学的調査も併せて行った。

【C】 A および B の結果を総合して、とくにカメルーンの熱帯林に暮らすバカとバギエリの 2 集団を中心に、アカやムブティなどにおける先行研究との通文化比較（Cross-Cultural Research）を行った。

## 2-2：現地調査日程、調査地域と対象集団

研究助成期間中の 2022 年 8 月 24 日から 9 月 17 日まで（1 回目）と 2023 年 3 月 1 日から 3 月 23 日まで（2 回目）にカメルーン共和国に渡航し、それぞれカメルーン南部州および東部州において現地調査を行った。

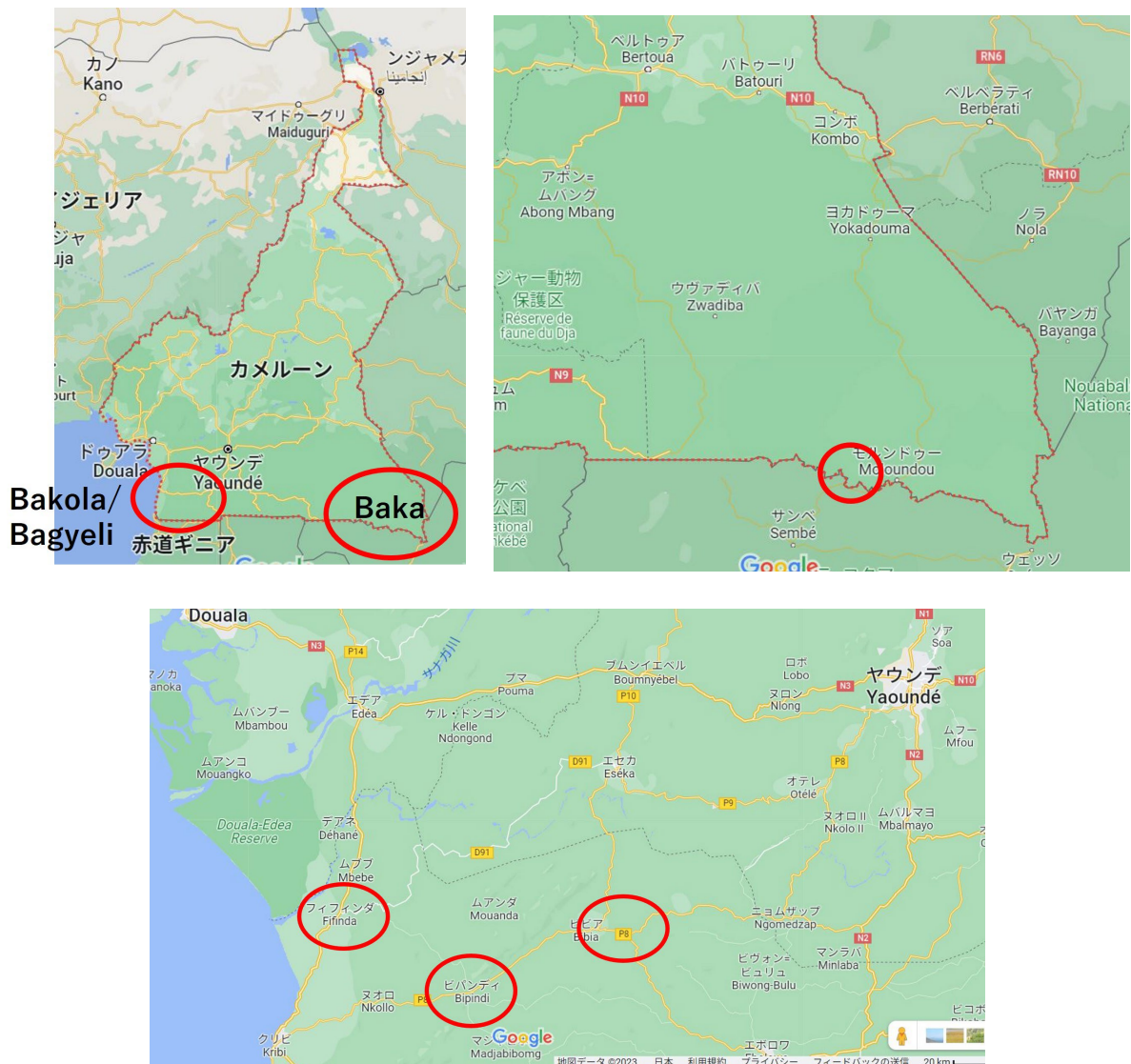


図 3：今回調査を行った 2 つの調査地域のカメルーン国内での位置（左上）。東部州での調査



地であるドンゴの位置（右上）。南部州での 3 つの調査地：海に近い方からロクンジェ、ピピンディ、ロロドルフ（上）。

1 回目の調査では、南部州のロロドルフ(Lolodorf)周辺の 3 集落でバコラを訪問し、ビピンディ (Bipindi) とロクンジェ(Lokoundje)の周辺の合計 6 集落でバギエリを訪問して成人を対象に男女別にグループディスカッション形式で聞き取り調査を行った（図 3）。

カメルーン政府科学研究・技術開発省（MINRESI）より、2022 年 8 月初旬に 1 年間有効の調査許可証が発行されたので、2022 年 9 月初旬から中旬にかけて共同研究者のアリステイド・ビトゥガ講師（ドゥアラ大学）、そしてヤウンデ大学大学院生のサンクレール・ビニガ氏と現地調査を行った。調査期間が限られるので、これまで研究代表者が訪ねたことのない南西部のピグミー系狩猟採集民バギエリとバコラの喫煙行動ならびに喫煙植物利用に焦点を絞ってデータを収集することとし、南部州のうち、近隣農耕民との関係性、森林の開発状況、海外の先住民 NGO による地域社会への介入の歴史、森林産物市場へのアクセスの方法、キリスト教とイスラーム教の布教状況において対照的な条件にあるロロドルフ（バコラ）、ビピンディ（バギエリ）、ロクンジェ（バギエリ）の 3 地域からそれぞれ 2 つの居住集団を訪問し、1 時間半～2 時間ほどの時間をかけて喫煙行動と飲酒行動についての聞き取り調査を行った（図 4: 質問項目の具体的な内容は、補遺に付した質問票を参照）。



図 4：聞き取り調査の光景。左：バギエリの定住キャンプでの調査（2022 年 9 月）。右：バカの定住集落での調査（2023 年 3 月）。

2 回目の調査では、サンクレール・ビニガ氏と共に東部州のムルンドゥ郡に属するドンゴ村（図 3）の 4 集落を訪問し、バカの成人を対象に、1 回目の調査と比較ができるように同じ質問票をもちいて、グループディスカッション形式で聞き取り調査を行った。

バカ人は、現在十数集団が知られる中部アフリカのピグミー系狩猟採集民の中では比較的早くから定住化が進んだ集団の一つであるとされる（Hewlett 1993）。かつては狩猟採集を主な生業としながら森の中で遊動生活を送っていたが、カメルーンでは少なくとも 1950 年代までに焼畑農耕の受容を開始し、徐々に定住化が進んだ（Althabe 1965）。バクウェレ人は、親族集団

を単位としてジャー川沿いに点々と小集落を作って焼畑農耕と漁撈を中心とした生業を営む（大石 2016）。バカ人、バクウェレ人双方の古老への聞き取りによれば、バカ人はバクウェレ人の集落の周辺の森林内にキャンプを作り、焼畑での労働や獣肉をはじめとする森林産物と引き換えに農作物を受け取っていたという。カメルーンが独立した 1960 年代初頭には、バクウェレ人、バカ人ともに半強制的な移住と集住化政策の対象となり、現在の定住集落周辺に隣接居住するようになった。バカ人は従来のようにバクウェレ人の農作業を手伝うだけでなく、自ら焼畑を開き、プランテン・バナナやキャッサバの栽培を主とした食料生産を行うようになった。もっとも、定住化や農耕化、貨幣経済の浸透が進む一方で、年間数週間から数カ月におよぶ狩猟採集キャンプ(*molongo*)を継続している集団もあり、村からの農作物の持ち込みなしに少なくとも 2 週間以上にわたり狩猟採集生活を送ることも可能である（佐藤ほか、2006）。また、カメルーン東南部の他地域において、バカ人の定住化や農耕化の程度は、近隣都市へのアクセス（車道）の近さなどにより様々であり、現在でも近隣農耕民に定住集落における主食となる農作物のほとんどを依存している地域集団もある。このように東部州には多くのバカの集落・キャンプがあるが、2002 年以来大石が継続的に調査を行って関係構築ができていたドンゴ村を調査地とした。

それぞれの調査地で、聞き取り調査に参加した成人のバカとバコラ／バギエリの人数は合計で延べ 136 名であった（表 1）。

表 1：2 回の調査で、聞き取り調査に参加した人数

調査参加者の内訳	N	男性	年齢	女性	年齢
バコラ／バギエリ	75	40	17-60	35	15-60
バカ	61	29	17-50	32	17-65

### 3. 研究成果

#### 3-1. バカとバコラ／バギエリにおけるたばこの呼称

まず、バカとバコラ／バギエリにおけるたばこに関わる呼称を整理しておく。

バカではたばこの総称が *ndako* であり、その下位概念として自分で乾燥させたたばこの葉をクズウコン科の草本の葉や新聞紙などで巻いて作る *mongolo* や *bopi* と呼ばれる自家製葉巻、*dolok* や *sigaret* と呼ばれる工業製品の紙タバコ、それに女性が行う口腔内の舌裏にタバコと灰を混ぜた粉を直接入れて味わう *ajikan* と呼ばれる口内タバコがある。マリファナは、タバコとは区別して *njama* と呼ばれる（Oishi and Hayashi, 2014）。

バコラ／バギエリでは、バカと同じく自家製葉巻を作り、これを *taa* と呼び、工業製品の紙タバコ *sigaa* と区別している。マリファナは *banga* と呼ばれる。口内タバコについては、バコラ／バギエリでは実践している者を確認できなかった<sup>1</sup>。

<sup>1</sup> 共同研究者のビトゥガ博士によれば、バコラ／バギエリの近隣農耕民社会では女性がしばしば口内タバコを楽しんでいると言う。

表 2 : バカとバコラ／バギエリにおけるタバコとマリファナの呼称

タバコの種類	バカ	バコラ／バギエリ
たばこの総称	ndako	
自家製葉巻	mongolo/ bopi	taa
紙巻タバコ	dolok/ sigaret	sigaa
口内タバコ	ajikan	
マリファナ	njama	banga

カメルーンには、British American Tobacco 社との契約のもとで工業的なタバコ生産が行われており、『Gold Seal』、『L&B』などの銘柄が流通しているが、バコラ／バギエリとバカに共通して、生もしくは乾燥させたタバコの葉を炙って乾燥させたのちに植物葉やありあわせの紙で巻いて喫煙する自家製葉巻の形態での喫煙が見られる（図 5）。



図 5 : クズウコン科草本の一種 *Trachypodium braunianum* の葉（左）をもちいて、手巻きのタバコでの喫煙（taa）のやり方を示すバコラの男性（右）。

喫煙の道具であるが、バカの間では高齢者を中心にモコンド（mokondo）と呼ばれる手作りのパイプで喫煙を楽しむことがあるが、バコラ／バギエリではパイプの存在は知られているものの、両親や祖父母の代の事柄として記憶されているだけで、実際にパイプを所有している、あるいは使用したことがあるという者はいなかった（図 6）。





図 6：高齢のバカ女性の所有するモコンド（喫煙用パイプ）。金属製の管と木材を使って手作りされるが、2023年現在所有・使用している者は数少ない。

### 3-2. 喫煙率の集団間比較とジェンダー差の検討

今回の調査で得られたバカ、バコラ／バギエリ、そして Roulette ほか（2016）のアカの自己回答による男女別喫煙率を比較すると、バカとアカの男性のほぼ全員が喫煙をする一方でバコラ／バギエリの男性には喫煙しない者もいることが分かる。また、ジェンダーによる喫煙率の差に集団間で顕著な違いが見られた（図 7）。最も大きなジェンダー差が見られたのは女性による喫煙がほとんど見られないバコラ／バギエリで、ほぼ男性のみが喫煙していると言って良い。バカとアカは男性の喫煙率はほぼ同じで、ほとんどの男性が喫煙するが、バカの女性はアカの女性よりも2倍近くが喫煙をしている。

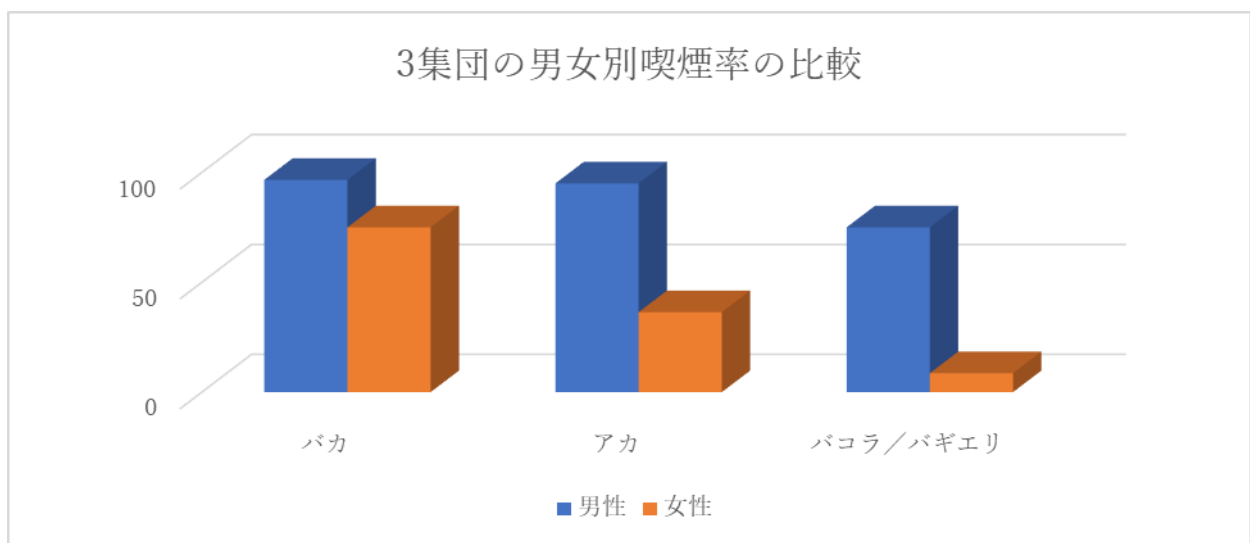


図 7: バカ、アカ、バコラ／バギエリの男女別喫煙率を百分率で示してある。バカとバコラ／バギエリについては本調査のデータを、アカについては Roulette 2016 のデータを使用している。

比較のために飲酒についても、同様にバカ、バコラ／バギエリの自己回答による男女別飲酒率を見てみると、両者に大きな差は見られなかった。また、男性よりも女性において若干飲酒率が高いという点が2つの集団で共通している（図8）。バコラ／バギエリにおいては、飲酒については、喫煙で見られたような大きなジェンダー差は存在していないと言える。

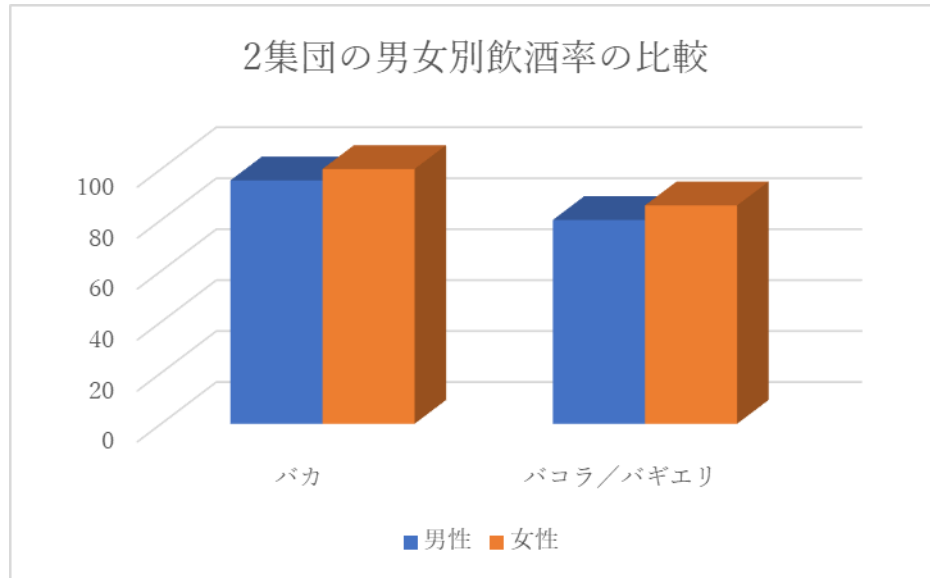


図8: バカとバコラ／バギエリにおける男女別飲酒率を百分率で示してある（本調査）。

他の2集団と異なる傾向が見られたバカ女性による喫煙について詳しく見ていく。Roulette (2010)によれば、アカ女性では40代後半までは喫煙率は40%を超えないが50代以上になると60%以上に跳ね上がる。年齢によって、喫煙するかどうかが大きく変わるかを予備的に検討するため、今回調査に参加したバカ女性32名のうち年齢について得られた28名について、中央値である25歳以下とそれ以上で喫煙率を比較したところ、前者が60%で後者は77%と大きな差は見られなかった（表3）。

表3: バカ女性の年齢群別喫煙率の比較

女性の年齢群別喫煙率（バカ）

年齢群	喫煙率
17-25歳 (N=15)	9/15 (60%)
26-65歳 (N=13)	10/13 (77%)

喫煙開始時期についてみると、回答が得られた22名のバカ女性のうち、19名（86%）が思春期に相当する *siya* の時期に喫煙を始めていた（表4）。回答が得られた8名のすべてが *wanjo*（思春期）だったバカ男性と同じく、比較的若い時期からバカ女性は喫煙を行っていることになる。



表 4: バカ女性の喫煙開始時期

女性の喫煙開始時期 (バカ)	
siya (思春期)	19 (86%)
yande (子ども期)	2 (9%)
kobo (壮年期)	1 (5%)
22 (100%)	

タバコ以外の野生植物の喫煙率について見てみると、アカとバカでは男性は半数以上が野生植物を喫煙しているが、女性はあまり喫煙しないことがわかる (図 9)。バコラ/バギエリでは、男女ともに野生植物を喫煙する者は一人もいなかった。

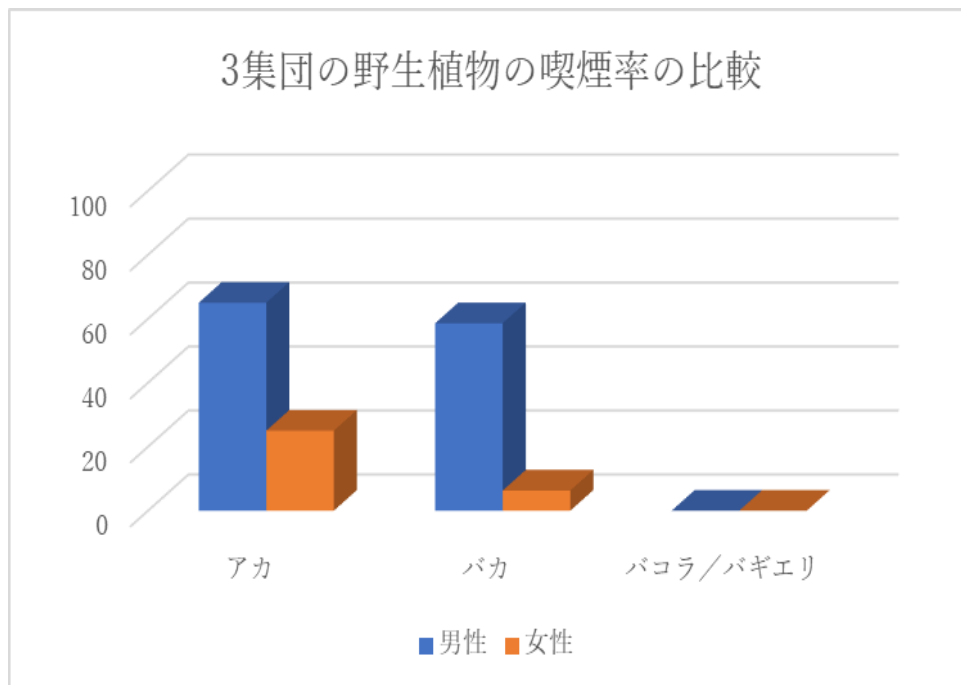


図 9: アカ、バカ、バギエリ/バコラにおける野生植物の喫煙率を男女別に示した。アカについては、Roulette (2016)の代表的な喫煙対象植物である botunga (*Polyalthia suaveolens*)の喫煙に関するデータをもちいている。バカとバギエリ/バコラについては本調査のデータに基づく。

タバコ以外の喫煙植物としてマリファナの喫煙についても 3 集団を比較してみると、アカの男性の間でマリファナ喫煙が突出して盛んなことが分かる。バコラ/バギエリとバカの男性はほとんどマリファナを喫煙せず、女性は両集団とも誰もマリファナを喫煙している者はいなかった (図 10)。

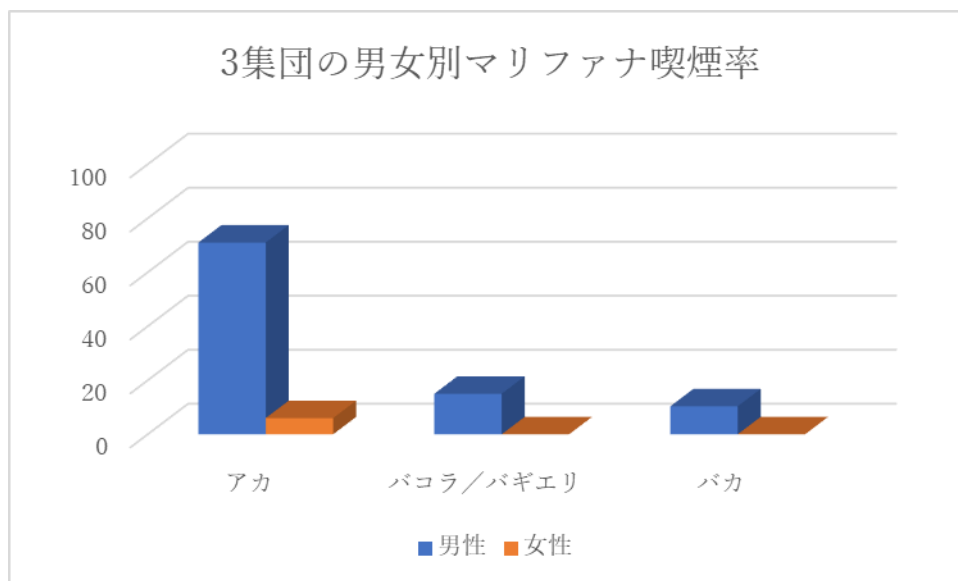


図 10 : アカ、バコラ/バギエリ、バカにおけるマリファナの男女別喫煙率。アカについては、Roulette and Hewlett 2018 のデータをもちいている。バコラ/バギエリ、バカについては本調査のデータに基づく。

### 3-3. バコラ/バギエリの 3つの調査地域における喫煙をめぐる社会経済的条件

バコラ/バギエリについて、現地調査からは (1) 喫煙と飲酒についてバコラとバギエリがどのような認識をしているのか、(2) 喫煙および飲酒の量と社会経済活動との関連、(3) 喫煙や飲酒の具体的方法の地域集団による多様性について語りやモノに基づく資料が得られた。

バコラ/バギエリでは男性は喫煙についてポジティブな価値を見出している者が多かったが、女性の間には喫煙についてネガティブな考え方が強調された。女性が喫煙する例外的な状況として、父母や子どもが亡くなった際には喫煙をするという語りが得られた。ほとんどのバコラ/バギエリ女性にとって、現在では日常的な喫煙は非常にまれか、ほとんど見られないことが分かった (3-2 節 : 図 7)。

これには、森林キャンプでの生活から定住村落への生活への変化に伴う喫煙行動への価値づけの変化や、キリスト教ミッションによる普及教育活動の影響が考えられる。喫煙に用いる野生植物の知識は、高齢男性においてわずかに保持されている程度であり、バカでみられるように、それらが日常の森林における活動中に喫煙されているわけではない。一方で、Roulette (2016) が報告したアカ社会と同様に、相当程度に農耕・定住化が進んだバコラ/バギエリ社会においても喫煙への認識に著しいジェンダー差が見られることが分かった。逆に言うと、バカの調査地においてみられる、老若男女が喫煙に高い価値を置いて喫煙を実践しているという傾向は、他集団と比較するとかなり特異な特徴である可能性が高い。

南部州の熱帯林では、都市のマーケットに近いことから、森林産物の採取と取引が盛んである (図 11 左)。樹皮や果実、野生獣肉などの非木材森林産物の採取が行われているバコラやバギエリのキャンプでは、これらによる現金収入が喫煙や飲酒と関連している。

バコラ男性の喫煙との関わりで注目されるのは、伐採会社によるものではない小規模な木材

伐採ビジネスである。植民地時代から木材資源の開発が行われてきた南部州では、国立公園を除けば森林の中に大型の樹木は少なくなっている。しかし、最近中国資本からの投資を受けた民間業者により盛んに二次林における小規模な商業伐採が行われるようになっている（図 11 右）。

伐採業者は森林内でチェーンソーを使って解体・簡易製材した木材の車道への搬出を人力に依存しており、そこでバコラ男性が雇用されているのである。そうした機会労働を行っている者は、重労働に耐えるために、行っていない者に比べて 5~10 倍以上の量の喫煙を行っていることが明らかになった。伐採ビジネスは短期的な収入をもたらすが、バコラ／バギエリの生活の場である集落近傍の森林環境を悪化させながら行われている（図 12）。過剰な喫煙は、バコラ／バギエリ社会の社会経済的な周辺化と深く関わっていると言える。



図 11：調味料として広く都市に流通する womi (*Scorodophleus zenkeri*) と呼ばれる樹皮が路上に束ねられて買い手を待っている（左）、中国資本による投資を受けたカメルーン人業者による小規模な木材伐採が活発化している（右）。



図 12: 伐採ビジネスによって使われた林道の様子。強引にトラックで通行するので、周辺の植物を傷めている。



### 3-4. バカの調査地における喫煙をめぐる社会経済的条件

バカの社会の生計手段は近年多様化している（2-2 節）。現代のバカの主たる現金収入源は、バコラ／バギエリと同様に野生のナッツ類や樹皮などの非木材林産物や野生動物の獣肉の交易、そしてカカオやコーヒーなどの換金作物栽培と、木材伐採会社や自然保護プロジェクト等での賃労働などである。地域によって、自然環境や地理的な条件が異なるが、本研究の調査地であるドンゴでは、伐採会社の操業を契機に 1980 年代からカカオの生産が盛んになった。カカオ生産の労働力の担い手はバカの人々であり、それが喫煙行動にも反映されている。

バカの人々がどうやってタバコを手に入れているかを見ると、男女ともに労働報酬としてタバコを得る機会が大きいのがわかる（表 5）。現金でわざわざタバコを購入することはあまりなく、自家栽培によって得られる葉で自家製葉巻を作るか、物々交換でプランテンバナナなどの農作物や森林産物とタバコを得たり、女性では配偶者や兄弟にタバコをねだってプレゼントしてもらおうといったやり方も見られる。

表 5：バカの成人によるタバコの入手方法（本調査）

タバコの入手方法	労働報酬	自家栽培	現金購入	物々交換	贈与
バカ男性	10	5	1	5	0
バカ女性	12	9	3	0	5

定住化が進んだバカ社会では、定住集落では狩猟採集活動よりも、自身の農園管理をしたり、他の民族集団の農園の手伝いをして過ごす者が増えている。バカを雇う農耕民や商業農民は、熟練労働者にアピールするためにバカたちに嗜好品をふるまう。地域によっては、「モチベーション」（motivation）と呼ばれる慣習が（坂梨、2009）、この地域のバカの喫煙行動に大きな影響を与えている可能性がある。

## 4. 考察

### 4-1. タバコとタバコ以外の喫煙植物の利用

バカ、アカ、バコラ／バギエリでは、喫煙の傾向が明瞭に異なっていた。すなわちバカとアカではタバコのほかに野生植物が成人男性の間で喫煙されていたが、バコラ／バギエリではほとんど喫煙されていなかった。ここには、森林に依存した生活様式が比較的維持されている狩猟採集社会と森林から離れて定住化が進んだ狩猟採集社会の違いが反映されていると考えられる。バコラ／バギエリにおける調査でも、野生植物の喫煙や、女性による喫煙は、知識としては語られたが、それは現役世代にとっては現在の生活とは異なる過去のこととしてであった。バカやアカは、定住化・農耕化しているとはいえ、森林内を遊動する形態のキャンプ生活も継続させている。狩猟採集社会における森林とのつながりが、喫煙行動と具体的にどのように関わっているのかは今後の集団間比較研究の中でさらに検討されるべき論点の一つである。

### 4-2. 経済・社会開発と喫煙行動

バコラ／バギエリとバカの両方の社会において、非木材森林産物の交易、伐採ビジネスや、

換金作物栽培などの経済開発、および人権擁護を目的にした NGO やキリスト教会やイスラーム教の布教組織など、外部社会との関わりが喫煙行動に大きく影響を与えていることが示唆された。これらの広義の開発に関わる変化は、狩猟採集社会がタバコを得る際に贈与・交換関係を結んできた近隣の農耕民社会との関係を大きく変えており、その結果が喫煙の抑制や促進として表れているとみることもできる。バコラ／バギエリでは、バカやアカに比べて学校教育が浸透している。喫煙が「健康に悪い」という考え方の普及に、学校や教会での指導や説教が寄与していることは間違いがないが、同様にこれらによって批判されているはずの飲酒については、多くのバコラ／バギエリが積極的に嗜んでいた。飲酒が許容される一方で、喫煙が排除されるのはなぜか明らかにするためには、日常の生活世界へのより長期の参与観察が必要になるだろう。

#### 4-3. ジェンダーと喫煙行動

中部アフリカの（ポスト）狩猟採集社会の間で、喫煙行動におけるジェンダー差が顕著にみられること、それに集団によって大きなパターンの違いがあることが本研究によって明らかになった。すなわち、バコラ／バギエリでは女性による喫煙がほとんど見られず、逆にバカでは7割近くの女性が喫煙をしていた。先行研究で扱われているアカの事例では女性の喫煙は少ないことが報告されているので（Roulette ほか 2016）、今回の調査結果であるバカ女性が活発に喫煙する事例はユニークである。アカ女性では若い女性は喫煙せず、40代以降で急速に喫煙率が上昇することから、Roulette らは、若い世代の女性の喫煙の忌避を妊娠・出産との関連から解釈しようとしている。今回の調査では、喫煙するバカ女性は、思春期の頃から喫煙を始めており、予備的検討ではあるがバカ女性の喫煙率に世代による大きな差は見られなかった。60代のバカ女性においても、思春期もしくはそれよりさらに若い子ども期に初めて喫煙したと答える者もあった。また、妊娠・出産の時期にも喫煙を止めないと回答した女性も少なくなかった。これらから、生物学的・医学的な理由だけで喫煙が忌避されるとは必ずしも言えないことがわかる。

今回の調査の問題点は、バコラ／バギエリについては異なる社会経済条件の3地点で調査を行ったが、バカについてはドンゴという1地点でしか調査を行っていないことである。カカオ生産が盛んであるドンゴでは、カカオ園の労働へのバカの動員とタバコ消費には関連があり、このことが喫煙行動や喫煙についての考え方に影響を与えている可能性がある。カカオ生産は、バカの居住する地域の多くで見られるが、ドンゴ以外の地域でもサンプリングを行うことで今回の調査の結果をより適切に解釈することができるようになるはずである。

#### 5. 結論

狩猟採集社会における喫煙には、狩猟採集活動や遊動生活など森林に根差した生活文化の側面と市場経済や開発の中で生まれた新たな状況への人々の適応の側面がある。バカやアカでは、森林に依存して培われた民族知識による野生植物の喫煙が見られるが、日常のほとんどを定住生活者として過ごすバコラ／バギエリではそのような慣習は失われてしまっている。バカでは、良き狩猟者たるものは喫煙するものだという狩猟者のアイデンティティに関わるものとして喫

煙が捉えられているが、バコラ／バギエリ社会では、喫煙自体を「良くないこと」として忌避する者も少なくない。本研究では、喫煙行動に関するジェンダー差が、バカ、アカ、バコラ／バギエリの3集団の間で大きく異なることがあることが明らかになった。とくにバカの女性の活発な喫煙行動については、先行研究の仮説を揺るがすものである。調査のサンプリングの問題などを解決して、さらなる検討を進めることが求められる。

## 6. 引用文献：

- Bahuchet, S. (1993). *La Rencontre des Agriculteurs. Les Pygmées Parmi les Peuples d'Afrique Centrale*. Paris: Peeters-Selaf.
- Bitouga, A.B. (2018). Femme Bakola/Bagyelli et pratique de l'agriculture: contribution à l'autonomisation alimentaire des campements au sud Cameroun, In: Patrick Kuletza et Marine Robillard (eds.) *Quel avenir pour les pygmées à l'orée du XXI<sup>e</sup> siècle ?*, l'Harmattan, Paris.
- Hewlett, B. S. (1996). Cultural diversity among African pygmies. In: Kent, S. ed. *Cultural Diversity Among Twentieth-Century Foragers: An African Perspective* (Vol. 1). Cambridge, UK: Cambridge University Press. pp. 215-244.
- 大石高典 (2016) 『民族境界の歴史生態学——カメルーンに生きる農耕民と狩猟採集民』京都大学学術出版会.
- Oishi T., Hayashi K. (2014) From ritual dance to disco: Change in habitual use of tobacco and alcohol among the Baka hunter-gatherers of southeastern Cameroon. *African Study Monographs*, Supplementary Issue 47: 143-163.
- Roulette, C. J. (2010). Cultural models and gender differences in tobacco use among Congo basin hunter-gatherers. Paper read at *International Conference on Congo Basin Hunter Gatherers*, held at Montpellier, France.
- Roulette, C. J., Hagen, E., & Hewlett, B. S. (2016). A biocultural investigation of gender differences in tobacco use in an egalitarian hunter-gatherer population. *Human Nature*, 27(2), 105-129.
- Roulette, C. J., Hewlett, B. (2018). Patterns of Cannabis Use Among Congo Basin Hunter-Gatherers. *Journal of Ethnobiology*, 38(4): 517-532.
- 坂梨健太. (2009). カメルーン南部熱帯雨林におけるファンの農耕と狩猟活動. *アフリカ研究*, 2009(74), 37-50.
- 佐藤弘明, 川村協平, 稲井啓之, 山内太郎. (2006). カメルーン南部熱帯多雨林における “純粹” な狩猟採集生活. *アフリカ研究*, 2006(69), 1-14.



## 7. 英文アブストラクト

### A Comparative Study on the Diversity of Smoking Cultures among Forest Hunter-Gatherers in Central African Tropical Forest

Takanori OISHI (African Studies Center, Tokyo University of Foreign Studies)

Bernard Aristide Bitouga (Department of Anthropology, University of Douala)

The tobacco preference of the hunter-gatherers living in the tropical forests of the Congo Basin is well-known, and it has attracted the interest of many researchers as to why they are so attached to tobacco. In this study, we investigated the diversity of smoking culture by bridging the perspective of considering human smoking as an evolutionary adaptation to the tropical forests and as a response to social change. We focused on three hunting and gathering societies in the northwestern part of the Congo Basin (Baka, Bakola/Bagyeli, and Aka). Smoking in hunting and gathering societies involves aspects of the cultural life rooted in the forest, such as hunting and gathering activities and nomadic lifestyles, as well as aspects of people's adaptation to new situations that have emerged in market economies and development contexts. In Baka and Aka societies, smoking of wild plants based on ethnobotanical knowledge can be observed. However, such customs have been lost in the Bakola/Bagyeli society, where they spend most of their daily lives as settled communities. In the Baka society, smoking is perceived as part of the identity of a skilled hunter, while in the Bakola/Bagyeli society, there are also many who avoid smoking itself as something "undesirable." This study revealed significant gender differences in smoking behavior among the three groups: Baka, Aka, and Bakola/Bagyeli. Particularly, the active smoking behavior of Baka women challenges hypotheses from previous studies. Further investigation is required to address issues including the problem of sampling bias in the survey and to conduct more in-depth analysis.

補遺 1 : 2022 年 9 月の調査でもちいた Questionnaire (質問票)

(1) Données démographiques (人口学的データ) :

Nom/ sexe/ âge/ ethnie/ père/ mère/ éducation carrière (名前、性別、年齢、民族、父親、母親、教育歴)

(2) Sur le tabagisme (喫煙について)

- Fumez-vous ou non ? Pourquoi ? (喫煙するかどうか？その理由は？)

- Si OUI : Quel type de tabac préférez-vous fumer ? Si c'est du tabac en feuilles, comment l'appréciez-vous ? (もし吸うなら何を吸うか？葉タバコは、どうでしょうか？)

- Si OUI : Comment vous procurez-vous le tabac ? (もし吸うなら、どのようにタバコを手に入れますか？)

- Si OUI : Voulez-vous arrêter de fumer ? (喫煙を止めたいですか？)

- Si NON : Avez-vous déjà fumé auparavant ? Si oui, quand avez-vous fumé ? (喫煙していない場合、これまでに喫煙歴はありますか？もしそうなら、いつ喫煙していましたか？)

- Fumez-vous de la marijuana ? Si oui, comment la fumez-vous ? (マリファナは吸いますか？もし吸うならどのようにして吸いますか？)

- Fumez-vous autre chose que du tabac et de la marijuana ? Si oui, veuillez énumérer librement les plantes que vous fumez. (タバコやマリファナ以外に喫煙する植物はありますか？あれば思いつく順にあげてください。)

- Aimez-vous que votre mari/femme fume ? Pourquoi ? (自分の配偶者が喫煙するのを好みますか？なぜでしょうか？)

(3) Sur la consommation d'alcool (アルコールの消費について)

- Buvez-vous ou non ? Pourquoi ? (酒を飲みますか？)

- Si OUI : Quel type d'alcool préférez-vous boire ? (もし飲む場合、どんな種類の酒を好みますか？)

- Si OUI : Comment vous procurez-vous de l'alcool ? (もし飲む場合、どうやって酒を手に入れますか？)

- Si OUI : Voulez-vous arrêter de boire ? (もし飲む場合、飲酒を止めたいですか？)

- Si NON : Avez-vous déjà bu ? Si oui, quand avez-vous bu ? (飲まない場合、飲酒経験はありますか？いつ飲みましたか？)

- Est-ce que vous aimez que votre mari/femme boive ? Pourquoi ? (自分の配偶者が飲酒するのを好みますか？なぜでしょうか？)